

氏名	廣畑 敦
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4186 号
学位授与の日付	平成19年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Comparison of the Efficacy of Direct Coronary Stenting With Sirolimus-Eluting Stents Versus Stenting With Predilatation by Intravascular Ultrasound Imaging (from the DIRECT Trial) (薬剤溶出ステントにおける前拡張なしのステント留置法と前拡張ありのステント留置法の血管内超音波による有効性の比較)
論文審査委員	教授 佐野 俊二 教授 大江 透 准教授 大橋 俊孝

学位論文内容の要旨

シロリムス溶出ステントにおけるdirect stent法はステント表面のコーティング損傷により、不良な長期予後につながるのではないかと懸念がある。血管内超音波を用いてバルーン前拡張を行わないdirect stent法をシロリムス溶出ステントで行い従来のバルーン前拡張後のstent留置法と比較した。8ヶ月でのフォローアップ時点で両群にはステント拡張、ステント内膜増殖、血管内腔面積には両群に差はなかった。ステント内の内膜増殖パターンを比較するとステント遠位端付近（ステント端より3mm以内）ではステント内膜増殖はdirect群で有意に少なかった（0.22 vs 0.098 mm³/mm, p =0.01、ステント遠位端より3mm以内での平均新生内膜体積の比較）。シロリムス溶出ステントにおけるdirect stent法は、従来の前拡張後のステント留置法と同様な均一なステント拡張、長期の血管内超音波の結果が得られ、さらにこのdirect stent法はステント遠位端付近の内膜増殖減少と関係があるようであった。

論文審査結果の要旨

本研究はシロリムス溶出ステントを用いた direct stent 留置法と、従来からのバルーン前拡張後の stent 留置法を多施設を用いて比較検討したものであるが、direct stent 法は従来の前拡張後のステント留置法と同様の結果が得られるだけでなく、ステント遠位端付近の内膜増殖減少が認められた。

多施設研究として重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。